

都市生活生協支援 第3号

1995.3.17

# 救援ニュース

都市生活現地救援本部  
西宮市今津山中町9-9  
都市生活西宮センター内  
電話：0306181792

3月12日は天候にもめぐまれ、西宮、芦屋、神戸市内の5会場で、炊き出し、救援物資の頒布、「都市生活」生協の供給品の即売、生鮮野菜の即売、こどもお楽しみ企画などが繰り広げられ、各会場とも大にぎわいでした。「都市生活」生協が主催し、大阪事業連参加単協や京都エル・コープが応援したこの催しは、被災者と被災地の復興を願う人々の輪を広げることに成功したといえましょう。各会場の詳細は次号のニュースで報告しますが、大阪、京都、和歌山から駆けつけられた生協組合員の皆さんに感謝します。

会場では、被災後ばじめて出会った組合員どうしが涙を浮かべながら抱き合う姿もあり、いろんな被害、いろんな悲しみ、いろんな元気が集まりました。救援活動もあらたな段階にはいります。道は遠いでしょうが、生協があってよかったと思える救援活動をつづけていきましょう。

大成功でした。3月12日

泉北生協

あいたくて「都市生活」  
みんな仲間だ

西部生協

エル・コープ

千里山生協

住吉生協

みなさんありがとう

東部生協

オレンジ・コープ泉南・和歌山

## 都市生活生協組合員、震災体験を語る

2月24日午前10時から、西宮センター現地救援本部で組合員、現地救援本部と東部生協皆さんの出席で「第1回交流会」がもたれた。組合員の震災体験である。

### 揺れの恐怖、生きててよかった

「揺れているときはほとんどの人が死ぬんじゃないかって思ったんじゃないですかね」

「大体天井が落ちるとか、壁が倒れるかとか、つぶされるとか・・・」

「パキッと折れて、あーっといくんやと思った」

「だからみんな無事だったときには、家の中めっちゃくちゃだったんですけど、生きててよかった、と思って・・・」

「会う人みんなそんな話してて・・・」

「子供とみんなで公園に行ったとき、助かったんやなあって、この日をどんだけ待ったかみたいだね。一月ぐらい経ってしみじみとなりました」

### 体験を共有していないつらさ

「早くから大阪に避難された方は、この体験を話せる相手がなくて、ストレスをためている組合員さんいるんですね。わっはっはって笑い話の世界になっちゃって、ああそうだったねって話せる人がいないし、仕事先も大阪でわかってもらえないし・・・。で、3人出会うって、話が尽きないんです。」

「こうだったってわかってもらえるって随分楽になりますよね」

「転地療法がいいかっていうとそうでもないんですよ」

「私の友達が奈良に行ったんですが、余りのギャップにすごい圧迫するものを感じて・・・。向こうはほんと普通の生活をしてるんで、必死で私も普通の生活をしようとして、それがしんどいのよって」

「実家なんか避難しても、”お水無いの、大変ね”というだけで、お風呂どうするのって発想がないんです。大変なことなのに、これがわからないみたいで・・・京都、大阪の友達と会っても、ここに線があるんですね。同じことを言ったときの反応が全然違うんです。避難用品があるのよって言っても、これをしょって逃げるの、わーっって感じで、疲れちゃう」

### 水が出るのと出ないと

「昨日（水がきて）激変しました。水が来た時に、がらりと光が射したって言うか、お水って偉大だなと思ったんですけども。これでやって行けるんじゃないかって感じでした」

「うれしいですね」

「（水道管が）道路まで来ていても、家の中に入ると切れているっていう、うちのとこ



ろだけが使えないっていう状態があるんです」

「そうなると生活にかかりっきりで、昔の人の気持ちがよくわかるっていうか、一日中家事をやっていることになります」

「今日は4回20リットルのタンクを運んで洗濯をしました。お風呂をいっぱいにするには、10杯いるんですね。ガスがでるようになるとお風呂にはいるようになってまた水を運ばなくちゃいけないんです」

「ポリタンクは救援物資で頂いて、あとは運ぶだけということですね」

「水を汲めば、かなり体力を使いますからね。まず水が出てほしいというのは、本音ですね」

「運ぶ大変さと、洗い物をするときに、タンクから鍋にいれて、それから・・・という手間ひまが、今までの家事より約三倍かかるというので、本当に縛られますね」

「とにかく、お水さえ行き渡っていたら・・・」

「うちの子は、いつも水を粗末に扱っているのだけど、このごろは水を大切にしている。そういう大切さが勉強できたのはプラスだと思いますが」

#### すこし余裕が出て都市生活のことを

「いちばんひどい時期が過ぎて余裕ができてきたら、都市生活がどうなったのか気になり始めた。17日に地震で、その週末まではなかなか余裕はなかったし、余り思い出したくないけども、水汲みの毎日で、必死でした。19日に西宮支部の委員会が予定されていて、気になっていたんですけども、確認しようとはなりません。一週あけてぐらいから落ちついてきて、私も地区の支部委員ですので、地区がどうなっているのか気になりました。近くの人とは連絡がついて安心しました。地区の安否確認の連絡をしたんですけども、比較的状況が早くわかったのと、避難した方も班の方に連絡したので、早くからほとんどの方と連絡がつかしました」

「うちは甲南地区でAさんが一人お子さんを亡くされたんですけども、あとで聞くと、都市生活の方が精神的にも、またお嬢さんの遺体を他の方の社宅の集会室に寝かしてみんなで励ましてあげたという話を聞いたので、私達の助け合いもこんな時に発揮できたんだなと実感しました」

#### 見なおした共同購入

「共同購入の班っていうのは都市においてものすごい威力を発揮すると思うんです。誰の所に手伝いに行けばいいっていうのがすぐにわかりますし、この班っていうのがすばらしいものだって実感しました。他の生協の方にそれを本当に伝えたいなって思ったんです」

「そういう横のつながりって作らなきゃいけないですね」

「どんな被害があってこれだけ怖かったっていうのは、伝わりにくいと思うんです。同じものを体験したから、そうよねそうよねって言えるけども・・・」

「知ってる方が、3人お子さんを亡くされたんで、やっぱり言い表せない位ショックでしたね」

## がんばる都市生活

「共同購入の班っていうのは合理性から作られたかと思ってたんですけど、快適にするための本質をついているんだなって・・・」

「そういう班は、役に立つ。電話かけてみて、きちんとしているかというのがわかるんです。いつもの密なつながりが無いと、電話もかけにくいんですよね。どうなったか連絡がとれないって班も結構あって・・・」

「うちの班はその点希薄で、周りには呼びかけあっているのに、自分自身は普段サバイバルのような生活をしてたんだというのがよく感じて、結構豪華な食事をね・・・。実家では心配してくれるんだけど、あるものでしっかり食べてたからね。これって普段と変わらないなあって」

「共同購入って一週間分くるわけでしょ、これがすごく良さがわかった」

「食料はあるっていうのは心強かったですね」



### 西宮センター

#### 職員の被害も甚大

センター職員8名中、全壊2名、半壊3名。本人肉親等の怪我なし。現在避難所生活1名、親類宅泊まり1名。

#### センター状況

外観上異常なし。扉の歪み、コピー機など事務機材費の一部破損消費財の一部破損。

#### 配達業務状況

震災直後は組合員の消息確認に奔走。(電話、救援物資配送時、バイクでの個別訪問) 1月31日よりステーション配達開始。以後出来るコースより班配達に移行。2月14日より注文制開始(毎週注文)注文班率27.75%。2月28日注文班率50.96%に回復。21コースから15コースに減少。